

第1回「福井県立歴史博物館、幾久公園の基本的方向性」検討委員会 議事概要

議題 博物館、公園の現状・課題について

■博物館[1階エントランス周りの無料空間と有料空間について]

- 無料のエントランス空間をもっと広くし、出入口も複数設け自由に使えるようにすれば、入りやすくなる。例えば、文化的なものや店を配置し、博物館に気軽に入っていただくように間口を広げる。
- 無料空間と有料空間が認識しづらい。無料空間をエントランスギャラリーまで広げて歴史や文化に触れ、2階の有料空間でさらに学べるような形になるといいと思う。ショップやカフェも利用しづらいので、エントランスにある方がよい。
- エントランスギャラリー、情報ライブラリー、ショップ、カフェは賑わいにつながるため、無料空間にあるとよい。無料エリアを広げた場合、公園と一体的なつながりも期待できる。
- 学芸員の研究のための書庫や情報ライブラリーの資料は、歴史の好きな方にご覧いただくなど、管理の方法を考慮したうえで、もう少しオープンな場所にコーナーがあると活用される。

■博物館[2階展示エリア・常設展示について]

- 動線は一筆書きに近いようにして、テーマ性により順路を進むにつれ盛り上がりや時代の流れを体感できるとよい。その場合はショートカット動線や身障者動線、途中に休みどころ等の配慮も必要。
- 人気のあるトピックゾーン(昭和のくらし)だけ見て帰ることがないように、トピックゾーンに行くまでにいろいろ見て体験できるようなストーリーになると、他の展示も生きてくる。
- 世界的に見ても中高生は博物館に一番来ない世代。小学生対応であれば、現状の展示にハンズ・オンを加えた新しい観覧ルートをつくることはできる。

■博物館[オープン収蔵庫について]

- オープン収蔵庫は大変素晴らしい考えであり、収蔵庫の物量の見せ方が重要。
- 地下収蔵庫の大量に積み上げた臨場感に非常に魅力を感じる。臨場感のある見せ方としては、例えば大空間に中空デッキ通路を設けて上から眺めたり、下からも覗いたりすることも考えられる。
- オープン収蔵庫は館の大きな特長。利用拡大に向け、現在のレイアウトであればオープン収蔵庫を無料空間にしてハンズ・オン体験スペースにすることも考えられる。
- オープン収蔵庫にテーマ性を持たせ、収蔵資料の中でハンズ・オンに使用できるものを活用し、発信していくとよい。
- 収蔵品のセキュリティ＝安全管理および保存環境上の問題も十分考える必要がある。

■博物館[収蔵庫について]

- 収蔵庫の整備は、どこまでの機能、面積、収蔵量を必要と考えるかであり、20年後30年後を見据え、その期間の中でのバランスをみて判断する必要がある。
- 歴史や民俗資料、古文書等の受け入れを進めていくには、文化財害虫やカビなどを処理する施設(場所)が必要となる。
- 博物館にとって県民へのサービスの基礎は文化財であり、そのために安全に末長く保管できる環境が必要。その前提として収蔵庫の地上化や増床が必要である。
- 地下の収蔵庫と機械室については、水害のリスクを考えると、収蔵庫の増床も含めて、収蔵庫は2階以上に設置すべき。

■公園[現状と整備について]

- 博物館や公園の整備がパッチワーク的に進み、最初と現在のゾーニングがうまくいっていないように思う。博物館と公園の登記上の境界線にこだわらない空間のあり方を考えてはどうか。
- 当初整備から年数を経ており緑地がうっそうとしており、場所毎に改善が必要。またシンボルゾーン中央にあるケヤキの樹形は、植生基盤がよくない状況にあり改善が必要。
- 運動施設は、老朽化が目立ち過ぎて、個別に改善対策が必要。

■博物館と公園の一体的整備[つながり、ゾーニングについて]

- エントランス前にインパクトのあるものを造ることで、公園から館の無料スペースの端まで来られるようなダイナミックなものができるように。博物館と公園のつながりが高まる。
- 博物館と公園をつなぐ仕掛けをオープン展示の感じで公園の中に作っていく必要がある。
- 子どもの遠足、遊ぶ子どもと見守る大人ほか、いろいろな世代がいろいろな利用の仕方をする場所であるので、どんな人がどんな形で利用するかイメージを膨らませつつ、最後には落としどころをつくるのが大事。
- 博物館ゾーン、運動施設を含む緑地ゾーンとその間のシンボルゾーンのつながりがあまり感じられない。シンボルゾーンの水施設、花壇がバリアになっており、つながりの視点から検討が必要。
- シンボルゾーンの水施設(噴水)が、公園の中の見通しを非常に悪くしているために、その他のゾーンとの繋がりが悪くなっている。
- 駐車場から狭い通路を通して博物館の玄関に行くメイン動線がうまくつながっていない。
- 博物館の右側の壁(シンボルゾーン側)が閉鎖的であり、オープンな空間にしていくことで公園との一体性が生まれる。
- 子どもの遊び場は、(親が)見守りやすいシンボルゾーンの周りにあったほうが良い。
- 例えば、公園の重心位置であるトラックの近くを、子どもの遊び場の見守りついでの利用者、運動施設の利用者などを想定した休憩ゾーンとして、その中心にカフェを設ける方法もある。

■管理・運営形態について

- 中核博物館の役割を実行する上では、システムを支える体制や使える状況(仕組みや体制)も含めて整備を検討する必要がある。
- 公園と博物館が連携して効果的に運営していく上では、民活活用も視野に入れていく必要がある。
- 無料空間でのハンズ・オンや情報ライブラリーの管理・運営では、破損や盗難などの問題を考慮し、サポーターズ倶楽部も含めたボランティアの参加・協力も考えられる。
- ボランティアの人材発掘も必要ではないか。

議題 県民の意見聴取

- 意見聴取方法はワークショップも考えられる。その場合は実施時期などを検討いただきたい。